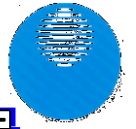


OSFだより

第120号 2014(H26)年春号



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138
osf-midorii1911@codacoda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com

OSF (Okamoto Scholarship Foundation) の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

桜の季節を迎え、財団でも卒業をする学生や、仲間入りをする学生やらで、私としては悲喜こもごもの落ち着いた毎日を送っています。

私が大学を卒業したのは1973年ですから、早いもので41年の年月が流れました。当時は1960年代に始まった高度経済成長の最後の頃で、日本の経済発展のために官民一体となって努力していた時代でした。入社式の社長のスピーチも「君たちは働いて偉くなり、会社を日本一にしよう。」でした。競争社会の中で勝ち残るのが良いという時代でした。

しかし、その後、71年の変動相場制導入や73年からの中東戦争の影響で石油の値段が上がるオイルショックを経験し、また、経済発展がもたらした公害問題も起り、経済成長に陰りが出始めました。

世界的にも大きな変化が生まれました。グローバル化が進み、21世紀になると環境問題や地球温暖化が真

剣に問われるようになったり、人口問題や国際的テロなどの社会問題も複雑化してきました。

そういう世の中であって、大事なものは何か。目指すものは何なのか。考え直さなければいけないと思います。

現在のキャッチコピーは「ナンバー1を目指すのではなく、地球人皆と共存共栄し、地球にやさしい世界をつくる」にしなければならぬでしょう。

これから社会に羽ばたく皆さん、時代を見据え、大きな目標をもって活躍してください。

理事長談

(2013年3月)

会館生さよなら会の

スピーチから抜粋)



千葉大の桜

今回はアンケート方式で答えていただきました。

金 海英さん (H18 奨学生、中国)

①今何をしていらっしゃいますか。

千葉大学を卒業し、電気メーカ入社6年になりました。5年間は中国、マレーシアの生産拠点で製造した製品をより効率的、より低コストで日本のお客様へ届けるため、海外拠点に生産計画作成の指導、納期確認、部材管理の仕事をしました。今は品質保証部へ異動して、各拠点品質情報の処理、品質に関する社内規定改版等の仕事をしています。長野県佐久市に就職して以来、スキー場が家の近くにあるので、スキーができるようになり、今はスキーを楽しんでいます。



娘さんと

②留学生生活はどうか。

留学生時代に印象に残ったことはOSFで広島原爆資料館を見学したことです。戦争の残酷さ、平和の大切さが分かった瞬間でした。楽しかったことはOSFのおかげで、初めていろんな日本料理を頂いたことです。懐石料理、日本のワイン、おでん、すき焼きなどの美味しさが忘れられないです。辛かったことは卒業してOSFと離れて、一人で長野県に来て風邪を引いた時です。(千葉ではほとんど風邪を引きませんでした。)

③日本に留学してよかったですか。

日本に留学して、人生の体験、視野、考え方などが倍になった気がします。また、日本人の優しさも少し身についたと思います。特にOSF家族の一員になったことが、日本に留学して一番良かったことです。

④夢は何ですか。

夢は宝くじに当選して年配の父、母と日本で一緒に住むことです。

⑤後輩の皆さんにアドバイス

花粉症にならないよう、気を付けてください。花粉症でないうちに、花粉の季節にマスクをすれば、花粉症になりにくいのです。

さよならパーティー

◎3月はお別れの月。10日奨学生、18日会館生・家族寮、25年度の最後の例会で別れを惜しんだ。



奨学生



会館生・家族寮生

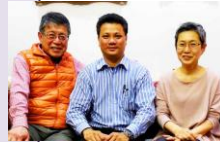
◎3月2日、ミビンさん(H20 会館生、ベトナム)が来日し、来館してくれた。元気な2児の母親になっていた。

◎3月4日、梁夫友さん(H17 奨学生、中国)が来団。現在上海交通大学の準教授となって活躍している。

◎3月28日、付照君さん(H15 奨学生、中国)が来団。現在深圳市で日系企業の副社長になっている。来日するたびに寄ってくれて嬉しい限りだ。ちょうど理事会の日で、皆に近況を報告してくれた。

◎4月10日、チャーテンクイさん(H7 会館生、マレーシア)が来団。22年前の最初の頃の会館生だ。久しぶりの再会に感動しきり。

OB来団



チャーさん

千葉大卒業式



◎1月7日、アミナさん(H14 年会館生、ウイグル自治区)に次女誕生

◎4月2日、モニラさん(H16 会館生、カンボジア)に長女誕生

◎3月に朱潔さん(奨学生、中国)が故郷で結婚式を挙げた。

おめでとうございます!

結婚・出産

♥4月♥

8日奨学生、16日会館生・家族寮の年度初めの例会が行われた。新しい顔が揃って、緊張感に包まれていた。楽しい幸せな一年間を送れることを願っている。

会館ニュース

◎1月8日、委員長選挙があり、23代委員長に朴明洙君(神田外大、韓国)が選ばれた。1年間よろしく!

◎4月2日、西千葉公園で花見の宴。20名が集まり、夜桜の花吹雪を楽しんだ。

[入・退館]

《退館》 家族宿舎：ホアンさん一家(H22、ベトナム) メンディ夫妻(H24、モンゴル) 会館：崔太郎君(H22、中国)、プービエン君(H20、ラオス)、張穎さん(H24、中国)、フォン君(H22、ベトナム)

《入館》 家族寮：モイヨ君一家(モンゴル)、金民赫君一家((韓国)、会館：プギさん(モンゴル)、ミランさん(中国)、レンディ君(インドネシア)、フーチン君(ベトナム)

寂しさと希望と! 両方混ざり合った季節です。



会館生スキー旅行

◎3月26,27日、会館生、長野の志賀高原にスキーツアー。気持ちの良いスキー日和で、思う存分に楽しんだ。

2014年度前期行事予定

5月10,11日	奨学生南房総旅行
5月14日	会館生・家族寮例会
6月3日	理事会
6月10日	奨学生例会
6月18日	会館生・家族寮例会
6月20日	評議員会

7月10日	奨学生例会
7月13日	OB会 バーベキュー
8月5~7日	広島慰霊祭参加
8月中旬	鴨川海水浴
9月11日	奨学生例会
9月17日	会館生家族寮例会

デュアンパチャン・カンボリスト (会館生)

ラオス(サウンナケート)

千葉大学 工学部 情報画像学科

専攻科目の選考理由と将来の目標

私が情報技術を専攻するきっかけとなったのは物心ついた頃に「ゲーム機」に興味を持ち、こんな小さいゲームパッケージの中はどのような仕組みになっているのかという好奇心を抱いたことでした。子供のときは自分のゲームを作りあげて、多くの人に小さい頃の私のように楽しく遊んでもらえたらと夢を見ていました。高校在学の際の得意科目は物理で、県代表として物理部門の全国大会に参加し、優勝しました。しかし、私にとって重要であったことは順位ではなく、出遭ったライバル達が私より広大な知識や豊富な経験を持っている人ばかりで、自分はむしろちっぽけで、「井の中の蛙、大海を知らず」という状態であると実感した事でした。その時の悔しい気持ちが向上心に変わり、自分をより成長させたいと思い、日本のようにより高度な教育を行っている国に留学したいと思いました。そこで、日本政府文部科学省による国費留学生制度を目指して、猛勉強した結果、選抜試験に合格し、日本に留学するチャンスを手に入れました。

2008年4月に日本語教育センターに入学し、1年日本語教育を受けました。同年4月に弓削商船高等専門学校の情報工学科3年次に編入し、必修基礎科目は勿論、専門知識そして実験やものづくりの実践にも懸命に取り組みました。情報技術の専門科目の中で私は画像技術に最も興味を持っており、5学年の卒業研究は画像分野を専

攻しています。研究テーマは「カメラを用いたインタラクティブなソフトウェアの制作」です。カメラによって写される画像のジェスチャーをリアルタイムで判断し、適切に応答させます。

実際に作成したのはユーザーの手が「グー」「チョキ」「パー」のいずれであるかを瞬時に判断し、コンピューターが必ず勝つ手の形を結果として画面に出力します。つまり、マシンは人間に絶対に負けないというじゃんけんのアプリケーションです。ジェスチャーを判断するアルゴリズムが研究の成果として期待できます。

千葉大学でも今の研究と関係する画像分野を継続して研究していきたいと思っており、富永先生の研究室画像処理・理解分野を希望しています。進学先での研究は、カメラを用いてユーザーの手の形状や動きを操作命令として受け取る事が可能な新たなユーザーインターフェースを開発することです。この研究は今までのポインター(マウス)やキーボード、また最近注目され始めたタッチパネルのようなユーザーインターフェースと違って、ユーザーがマシンに触れずにただ空間に手で合図を描いたものをマシンがまるで視覚を持って理解できるように応答してくれます。今まで無かった、より効率よくマシンと人間の間のやり取りで教育、医学や福祉など様々な分野に応用され、社会に貢献することを目指すものです。これまでの技術を超える成果を実現するために、私はもっと高度な研究を専攻する必要があります。大学卒業後は大学院に進学したいと強く希望しています。



蔡虹 (会館生)

中国(吉林省)

神田外語大学 外国語学部

国際コミュニケーション学科

専攻科目の選考理由と将来の目標について

神田外語大学の外国語学部、国際コミュニケーション学科2年の蔡虹です。

2013年の4月で日本に来てから4年目になります。時間があっという間に経ち、あいうえおさえできなかった私は大学生になりました。2回、神田外語大学を受験しましたが、1回目に失敗を味わって、2回目の2012年に入学することができました。国際コミュニケーション学科には私をひきつける魅力がありました。それは中途半端だった英語を始めから学べるプログラムと、ネイティブの先生と学生たちでした。消極的だった性格をネイティブアメリカンの先生や学生とのつきあいで、少しでも改善しようと思いました。実際英語は頑張っただけ成果がでていると思います。それより嬉しいことは性格がずいぶん変わりました。明るくて積極的になったと周りからも言われます。

大学2年目になると、将来のことをいろいろ考えなければならなくなりました。日本に来て大学に入学して、たくさんの人々との出会いによって、長かった日本での4年間で考え方も、夢も変わりつつあります。中国にいた頃は、ファッションデザイナーを目指していましたが、日本に来てみると、それよりもおもしろい職業がたくさんあることに気づきました。もちろん、今でも洋服に関することは興味を持っていますが、デザイナーよりは、ファッションバイヤーの方が私には向いているのではないかなとも思っています。それで、バイヤーに関する情報を調べてみたりしています。

こうしてみると、そういう仕事なら、英語、日本語が話せなくてもできるのではと言われますが、私は折角学んだ2つの外国語を話せる職業に就きたいと思っています。時間が経つにつれ、将来に対する考え方も変わっていくかもしれませんが、今のところは日本語と英語をずっと使っていきたいと思っています。



李 今花 (奨学生) 中国 (吉林省)
千葉大学 工学研究科 人工システム科学専攻

日本での留学生生活において

苦しかったこと嬉しかったこと

日本に来て4年目になった。振り返ってみるとあつという間に過ぎた時間である。その間は楽しい時もあれば、苦しいときも交互にきた。

日本に来る前、中国の大学を卒業してから、もっと優れた技術を身につけて、素晴らしいエンジニアになりたいという夢を持って、日本の会社に就職して日本に来た。

初めての外国生活は思ったほど甘くなかった。新しい環境で生活しなければならない私にとって一番難しく、早く乗り越えなければならないことは言葉の壁であった。当然なことであろうが、言葉が通じない世界での生活は何よりも寂しかったし、恐ろしかった。言葉の壁を乗り越えるために、日本語能力試験1級合格を目標として日本語の勉強を始めた。毎日、仕事が終わってから、余裕時間を利用して日本語の勉強をした。そんな日々を6カ月繰り返して、日本語能力試験1級に合格した。

今、思い出して見ると勉強過程は苦しかったが、言葉の壁を乗り越えることができて嬉しかった。



その後も苦しいときは沢山あったが、その中でも印象的なことは大学院入学試験だった。もっと高い専門知識を身につけるために、会社をやめて大学院に入る決意をした。大学院に入るためには入学試験が乗り越える壁だった。努力すればできると思って挑戦したが1回目は失敗だった。1回目の失敗で自信を無くして、入学試験に対する不安感と心配で不眠症に悩んだ時もあった。しかし、素晴らしい先輩たちのアドバイスと応援が力になって、私にもう一度入学試験と戦う勇気をくれた。その時私は、他人に親切にすることがどんなに大事なことを、心に強く感じた。

最近では自分がいかに幸せ者なのか実感できる。毎日、自分が好きな研究を行い、実験から新しい知識を得ることで満足できる。

苦しさとは嬉しさは交互だと考える。どんなに苦しくても夢を持って諦めずに努力して乗り越えると、自分の成長した姿を見つけることができる。これより嬉しいことはないと思う。

張 怡 (奨学生) 中国 (遼寧省)
早稲田大学 アジア太平洋研究科 国際関係学

自分の長所と短所

私の長所は自分の意志が強く、目標を決めたら最後までやり遂げることです。

大学の時に、学校には日本の大学との交換留学プログラムがあることを知り、ぜひ参加したいと思って応募しようと思いました。しかし、交換留学期間中で習得した単位が足りなくて、あるいは学校に認定してもらえない単位があることで、卒業を延長するリスクがあると聞きました。日本語を勉強してからずっと日本に留学したいが、きちんと4年で大学を卒業もしたいと思いました。それで、私は1年間交換留学に行っても、必ず延長なく4年で大学を卒業しようと目標を決めました。

そして、この目標を抱えて留学を始めました。延長なく卒業するためには、中国の大学の授業に相当する科目を履修し、単位を修得することが必要になります。私は中国の大学では商学部に所属していたので、商学や経済学などの履修科目が多かったです。そのため、交換留学生向けの日本語の授業以外に、商学と経済学の授業を取りました。初めて留学で受けた授業は「企業財務部」でした。しかし、いくら中国で日本語の勉強をしても、生の日本語は私にとって難しかったです。そのため、



私はなるべく詳細にノートを取り、授業の後に何回も読んで、専門用語を調べて授業の内容を理解しようとしてきました。そのおかげで、期末試験に合格して、なんとか必要な単位が取れました。

このように、自分の意志を貫き、目標に向かって頑張った結果、充実した交換留学生活を送ることができ、きちんと4年で大学を卒業することもできました。

一方、私の短所は何でもついつい一人で抱え込んでしまいがちなところです。

私は嬉しいことなどは他の人と分かち合いたいです。が、悩んだり迷ったりすることなどは、なかなか人に相談することができなくて、一人で抱え込んでしまうことが多いです。なぜなら、ほかの人に迷惑をかけたくないと思っているからです。

しかし、一人で抱え込んでしまったら、自分の立場で自分の考え方しかできないから、解決できないこともあります。やはり、立場の違ったほかの人の意見を聞いて、自分とは異なる考え方からインスパイアを受けることができます。そのため、これからは、頑張っ自分の短所を克服して、人のアドバイスをよく聞いて、何でも一人で抱え込まないようにしたいと思います。